

3く3く

第12号

里山建築研究所筑波山麓録

特集

富士見が丘いたくらの家
木立の一枚屋根

01

04

report・infomation

大工志塾
丸木美術館ドナーウォールプロジェクト

08

富士見が丘 いたくらの家



写真：齋藤さだむ



階段吹き抜け。ベンチはカヤの曲がり材をそのまま活かす。



キッチンカウンターと座卓はクスの大径一枚板を活かした。掃き出し窓外部は格子戸をたてて西日をさえぎる。



土間から階段・吹き抜け越しに居間と食堂。その奥にテラスを望む。大黒柱は8寸角、恵比寿柱は7寸角。共にスギの通し柱。

横浜市北西の丘陵地に広がる富士見が丘に板倉の家が竣工。建主のTさん家族は、キャンプ等アウトドアライフを楽しむと同時に自然環境への感心も高い。東日本大震災をきっかけに、日々の暮らしに疑問を感じ、家づくりを勉強。その結果、日本の豊富な森林資源を活用する板倉の家を選択した。また薪ストーブを中心に、通風や採光等、自然エネルギーを活かした設計とした。

木材調達は、福岡県八女市の株式会社八女流に一括発注し、大量の木材を適切な価格で購入した。都市部で調達が難しい大黒柱やタイコ梁などの長尺大径材を活かした空間と架構を実現できた。

玄関を入ると、中央部の階段、吹き抜けまで土間が広がる、そこはキャンプしながら薪ストーブを囲む家族団らんの間。その奥は板の間で、居間と台所が一間となり、大らかな空間となっている。そこにつながるように西側全面には、奥行一間半の庇付のデッキを跳ね出している。ここでは戸外の暮らしと眺望を楽しむことができる。西側道沿いは崖地と繋がっている。

階段を上ると正面に家事室。周囲に水回り、東側に寝室を配置した。夫婦それぞれに書斎を設け、コロナ禍のリモートワークにも対応できる。

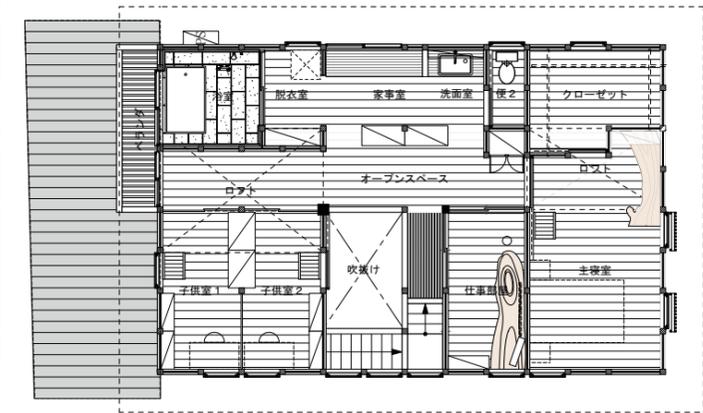
木材調達のために建主自身も八女まで足を運び、自ら木を見てクスやカヤの大きな一枚板を選んだ。キッチンカウンター、ベンチ、座卓など各々の部屋に無駄なく活用した。

不動産業を営むTさんは家づくりを通してこれから多くの方に板倉の家の良さを伝えたいと考えている。



木立の一枚屋根

写真：齋藤さだむ



DATA 富士見が丘いたくらの家

用途 住宅
 延床面積 161.98㎡
 敷地面積 205.48㎡

設計 (株) 里山建築研究所
 CM (株) ミナクニ・コンサルタント
 材木 (株) 八女流

外部仕上げ
 屋根 ガルバリウム鋼板縦葺き
 外壁 スギ板目板張り、15mm
 建具 鋼製建具

内部仕上げ
 床 1F スギ本実板ア、30mm
 2F スギ本実板ア、15mm
 壁 スギ落とし込み板表し
 建具 木製建具

写真：齋藤さだむ



デッキには8mの丸桁。深く軒を差し出す。



土間の中央に薪ストーブを配置。団らんの場。効率的に建物全体を暖める。

夫婦は福井県出身。故郷を離れ関東に住みながら、生まれ育った地に程近い越前海岸の森に土地を求めた。

自ら住む建築の構造や材料等細部まで知りたいと望む探求心旺盛な二人。故郷での土地探しと並行して、家づくりの知見を少しずつ集めた。そしてたどり着いたのは、構造がそのまま仕上げとなる板倉構法。表わされた柱や梁、板材の全てを地元越前のスギ材で賄った。

間取りは、2.5×8間の細長い長方形で大部分が土間住まいで

ある。南面に開口を大きくとり、屋根を深く差しかけた。土間は木立に開かれ、森と繋がる大きなリビングになる。片流れの一枚屋根の下、浴室と便所の上部にロフトを設けた。間仕切りをつくらない一体空間が特徴的だ。

持ち込んだ家財は最小限。家電は、冷蔵庫と洗濯機、エアコン1台で事足りた。

故郷の森に帰った夫婦は、まるで木立の中に一枚のラグを広げてキャンプするかのよう、軽やかに暮らす。



家事室から浴室を望む。高野横の浴槽。浴室からベランダへ出られる。



寝室の一角に設けた書斎。リモートワーク時に活躍。天板はカヤの木。

写真：齋藤さだむ



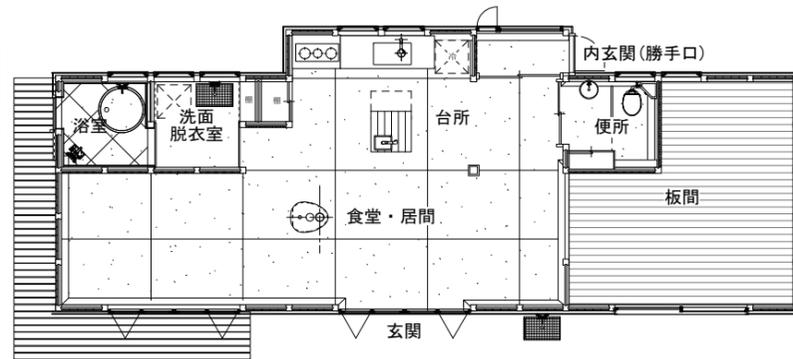
台所と居間、その上にロフトを設ける予定。タイコ梁は地元の松材を使用。



木立の中に佇む東西8間の細長い平屋。全室が森に開かれる。



南側開口部は森に全開できる解放的な窓。



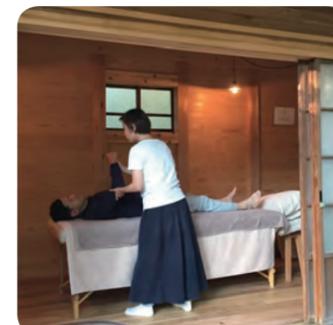
DATA 木立の一枚屋根
用途 住宅
延床面積 80.97㎡
敷地面積 1023.69㎡

設計 (株) 里山建築研究所
施工 (株) 北越

外部仕上げ		内部仕上げ	
屋根	ガルバリウム鋼板葺き	床	スギ本実板ア,30mm
外壁	スギ板鉋張りア,15mm	壁	スギ落とし込み板表し
建具	銅製建具、一部木製建具	建具	木製建具



母屋東側に、板倉構法にて小屋をセルフビルド。仲間たちと作り上げた。完成した小屋では、リフレクソロジーによるサービスを行う。



四季を感じられる森の中で施術を行う。インスタグラムにて発信中。
写真：「リフレクソロジーなお舎」@naosya.ashimomi

大工志塾 板倉構法で家づくりを学ぶ

伝統的な大工技能を学ぶ「大工志塾」。全国から集まった有志の塾生たちが3年間学んでいます。その修了制作として木造平屋の住宅の建て方を行いました。

住宅は、約20坪の2戸1棟タイプの長屋。板倉構法を採用し、伝統的な石場建てで、土台は無く足固めとしたことが特徴です。

塾生は大工技能だけでなく、森林資源の豊かな神流町にて、ウッドマイザー（移動式製材機）を建築現場に設置し、製材にも触れスギ材の特性を学びました。

約30名の塾生に対して、卒業生である大工職人7名が指導役にあたり、約3日間で建て方を行いました。自ら墨付け、刻んだ部材を力を合わせて組み上げました。年内に竣工予定です。

※大工志塾は、住宅産業研修財団（内閣府所轄）の事業の一環です。また弊社の安藤邦廣が講師として協力しています。



石場建て

丸木美術館 ドナーウォールプロジェクト

開館50周年を迎えた「丸木美術館」（埼玉県東松山市）。反原爆、平和を願い活動した故丸木夫妻の作品「原爆の図」が所蔵されています。築50年以上となり、老朽化がすすみ、改修の運びとなりました。既存鉄骨造りの建築の中に、板倉構法による内箱のような空間をつくります。スギのもつ環境調整力を活かした収蔵、展示空間とします。

改修に合わせて、丸木美術館ではクラウドファンディングにて寄付を募っています。平和の象徴である鳩を、アーティストの山下アキさんが壁面に描く「ドナーウォールプロジェクト」が立ち上がっています。描かれた鳩には寄付者のイニシャルを入れることもできます。特設サイトがございますのでご一読ください。ご賛同いただけますと幸いです。

<https://congrant.com/project/marukigallery/3030>



株式会社里山建築研究所

〒330-0433
茨城県つくば市北条一八四
TEL: 029-867-1086
FAX: 029-867-1083
URL: <https://satoyama-archi.co.jp/>
E-mail: sai@satoyama-archi.co.jp

会社概要

里山資源を生かした居住スタイルを探る実践的な試みの場として、筑波山の山裾に開設したのが、里山建築研究所です。現代の里山に循環を取り戻すべく、考案された板倉の家を提案し、時代の趨勢によって変わり続ける民家の現代のカタチを探ることが、私達の試みです。

つとめ

設計・設計監理・請負工事
「板倉の家」…新築、改築
「民家再生」…改築、移築
「茅葺き」…葺き替え修繕、新築
「企画制作、調査研究」
「地域づくり支援活動」

編集後記

建築写真は、日の光が柔らかく建物が綺麗に映る朝に撮影することが多いです。一方で、夕景はノスタルジックですが、建物に灯がともり、また煙突から薪ストーブの煙がでていると生活感があり嬉しいもので、それぞれ良さがあります。今号は特集の二軒とも夕景もご紹介しております。

